

一、学会員活動  
高明潔

「もう一つの脱構築的歴史過程—内蒙古自治政府の「三不兩利政策」をめぐる」(『愛知大学国際問題研究所紀要』二二九号、三月)、「中国における回族ムスリムの重層意識とイスラーム教の空間構築に関する考察—中国ムスリムと清真寺調査を中心に②」(『文明21』第一八号、愛知大学国際コミュニケーション学会、三月)、「民族地域自治—新疆・チベット・内モンゴル」(『歴史地理教育』二〇〇七年七月増刊号)

砂山幸雄

「格差社会中国を知る七冊」(『オルタ』二〇〇七年三月号)、「格差大国」中国「政治都市」北京(『歴史地理教育』二〇〇七年七月増刊号)、「変貌する中国の社会と文化」(講演、尾張地区地歴・公民科教育研究会総会、於滝学園高校、五月八日)

松岡正子

「四川ルズ・チベット族の婚姻慣習—「西番」社会の紐帯」(『愛知大学国際問題研究所紀要』二二九号、三月)、「中国の年画—吉祥と馭邪の木版画」(講演、愛知大学講演会、於愛知大学車道校舎、七月七日)

中国21 Vol. 29 予告(08年3月刊行予定)

特集●旅遊中国

——産業としての観光、文化としての観光——

北京オリンピックを間近に控え、観光ブームに拍車がかかった中国では、国内の観光旅行者や海外からの旅行者(インバウンド)の拡大に加え、海外へと向かう中国観光客(アウトバウンド)の数も飛躍的に拡大している。中国をめぐる観光の発展は、中国経済の発展の反映であると同時に、中国社会の社会的、文化的変動と深く関わる現象としても注目される。特集では産業としての視点と文化としての視点の両面から、旧満州・台湾を含む「観光中国」の歴史と現状を多角的に考察する。

【座談会】中国観光の発展をどう見るか「莫邦富・吉村久夫・平野聡・高山陽子・砂山幸雄」

【論説】鈴木勝「グローバル・ツーリズムを左右する中国観光」

／梁春紅「中国の国際観光動向と訪日観光事情」／王文亮「中国における「三農」観光促進の現状と課題」／東美晴「上海における観光の選好性」／張恩華「紅色旅遊」／阿部安成「戦前高商生の大陸修学旅行について」／高媛「観光薬土としての満州」／曾山毅「植民地台湾における「近代観光」の形成」ほか

【書評】高山陽子著「民族の幻影」(「上野稔弘」)／瀬川昌久・西澤治彦編訳「中国文化人類学リディングス」(「田村和彦」)